

## 研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 文字・文書メディアの新しい利用基盤技術の開発とそれに基づく人間調和型情報環境の構築

2. 研究代表者： 黄瀬 浩一（大阪府立大学大学院工学研究科 教授）

3. 中間評価結果

人間行動とテキストの相互的な関連付けを実現することにより人間調和型情報環境実現を目的とし、人間と同様にテキストを読むことのできるシステムの実現をめざしている。基盤となる認識装置開発、実時間文字認識技術、実時間文書画像検索、文字切り出し、全方位認識の各研究開発と、大規模データベース構築は予定に従って進んでいる。新たな展開として生まれてきた Reading-Life Log やその iPad へのライトウェイトな実装や万語計などは本研究グループの要素技術の応用の域を出ず、戦略目標である人間調和型情報技術の実現という観点からは踏み込みが浅く、マイルストーンのレベルに至っていない。読むという行為は人間にとって基本的であり、Reading-Life Log をはじめとする「読む」という行為を支援する情報技術は科学技術イノベーションとして大きな可能性を秘めているので、社会からの要請の高い教育などの問題の重要な側面をきちんととらえ、本研究グループの強みである文書検索と文字認識技術を一般的な映像理解技術、自然言語処理技術、機械翻訳技術などと組み合わせるなどすることにより、テキストとコンテキストとの対応づけや人間の理解内容に踏み込んだ人間調和型情報技術のマイルストーン構築を目指してほしい。